

受難の主日（枝の主日） マタイ 27：11～54

イエス様は、息を引き取るときに“叫ぶ祈り”を御父に捧げましたが、それ以外はずっと沈黙です。人々の妬み、侮辱が爆発する中、黙って耐えています。どんな気持ちだったでしょう？ 私なら、呪い返したい、やり返したい、気持ちです。こんなことまでされて・・・悪いことをしたのなら仕方がないけど、人を助けてきたのにこの仕打ちはないだろう。人への怒りだけでなく、自分をこの世に送った父なる神への怒りや反発があってもおかしくありません。でも、そうされなかった。これほどの孤独や苦痛を味わっても、イエス様は父なる神様を信頼し続けました。それは“戦い”だったと思います。神の子だから何の苦もなく、すんなり受けられるような“試み”じゃなかった。「どうしてこんな目に遭うのか！」怒りや絶望を選ぶのか？ 「神への信頼」を選ぶのか？ の“戦い”でした。命が助かる方法はあるのに、それを使わないで神に委ねる。そんなこと自分にできるのか？ 自信はありません。でも、イエス様は最後まで“戦った”。その姿から、力を得たいと思います。今までよりも、一步踏み込んで“戦える力”を願いましょう。 徳山教会では、ミサが行われていますが、全世界の多くの信徒がミサに与れません。このことも1つの“戦い”です。ミサをしてもいいのか？ するべきではないのか？ いつ収束するのか？ はっきりしたことはわかりません。それぞれが判断して決めています。どれが正解なのかはわかりません。一つ言えるのは「人間にはわからない。神様だけがご存知だ」ということです。「神様だけが・・・」と思えるか？ 「その神様を信頼できるか？」の“戦い”が続いています。

イエス様は、“戦い続けて”最後に勝利されました。私たちも“戦って”勝利しましょう。「神への信頼」を選べるよう願って聖週間を過ごしましょう。